

第1回 酒田港脱炭素化推進協議会 議事概要

日時： 令和5年8月28日（月）13:30～15:05

場所： ホテルリッチ&ガーデン酒田 1階 スカンジナビア

【議事概要】

- 議事次第に沿って事務局（山形県）より説明した。
- 今後、一部事業者と港湾脱炭素化促進事業等に関して個別に協議を実施予定。次回の協議会は、12月下旬の予定。

【主な意見】

- ゼロカーボン山形2050の中で2030年50%削減との整合性を図らないといけないということがポイントになると思うが、2030年までの取組みはどのようなイメージとしているのか。

（事務局）山形県環境計画では2030年50%削減を再エネ導入が中心として考えられている。酒田港でも電気由来のCO2排出量の割合がある程度大きいことから、再エネ導入が主と考えている。

- 酒田港としては洋上風力を計画に入れるとカーボンニュートラルではなくカーボンマイナスになることも考えられるのではないか。

（事務局）洋上風力は、酒田港におけるCO2排出量の推計値42万トンに対して、それ以上の削減効果と算出される可能性はある。酒田港のみではなく県全体の削減効果に貢献する事業であり、整理については検討する。

- 計画の達成状況の評価においては、事業実施主体の情報提供を受けて進捗を確認としているが、事業効果の目標はマストではなく、臨機応変に変更もありうるという認識でよいか。

（事務局）その認識でよい。

- 藻場はどのように作っていくのか。

（事務局）現時点で具体的な手法は未定。現在取り組んでいる実証実験の結果

を踏まえて取り組んでいくことになる。

- 動力を電気に換えた場合、火力発電所からの電気を使っている場合でも CO2 を削減したといえるのか。
(事務局) 電気には排出係数があり、再エネが拡大すると排出係数も下がっていくので CO2 を削減したと言える。

- 合成燃料は CO2 が欠かせないと思われる。酒田港での CO2 のリサイクルを考えているか。
(事務局) CO2 のリサイクルに関して現時点で具体的な取組はないが、具体化なれば吸収作用の効果にもなると考えている。

- ロードマップをもう少し具体的にして欲しい。水素や合成燃料の生成あるいは利活用に関して、目の前でどのような取組ができるか、中長期的にどのような選択肢を取っていくのかなどが見える形でロードマップや文書を検討していただきたい。